

開講年度	令和 8 年度	開講課程	博士課程
授業名	免疫・発がん特論		
開講キャンパス	伏虎	教室	基礎教育棟 3 階講義室 3 中講義室 303
科目区分	専門科目	配当年次	1 年次
必修・選択の別	選択	単位	1 単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	粘膜免疫、転写調節因子、幹細胞性		
担当教員 (下線：科目責任者)	医		
	薬	教授 長田茂宏、助教 民谷繁幸、教授 佐藤慎太郎、助教 中村有孝	
授業の概要	免疫系の破綻や感染症はがんの発症と密接に関わっている。免疫システムの構築、発がんのメカニズムについて概説し、両者の攻防について解説する。		
到達目標	<input type="checkbox"/> 免疫学の基礎を復習した上で、ウイルス感染症免疫学、粘膜免疫学を理解する。 <input type="checkbox"/> 遺伝子発現制御と発がん（がん化）の関係性を高い知識レベルで理解する。		
授業計画	1. 遺伝子発現とがん化①（長田茂宏／1回）【10/15 6限】 2. 遺伝子発現とがん化②（長田茂宏／1回）【10/15 7限】 遺伝子発現制御機構に関する研究の基礎とがん分野における応用について概説する。  3. 感染症と免疫（民谷繁幸／1回）【10/19 6限】 4. 粘膜免疫学①（佐藤慎太郎／1回）【10/21 6限】 6. 粘膜免疫学②（佐藤慎太郎／1回）【10/29 6限】 8. 基礎免疫学（中村有孝／1回）【11/5 7限】 ウイルス感染症免疫学、粘膜免疫学の理解を目的とし、研究内容を交えながら最新の知見について講義する。  5. 幹細胞性と発がん（未定／1回）【10/22 6限】 7. 可塑性と発がん（未定／1回）【11/5 6限】 がん細胞の「幹細胞性」の役割とその「幹細胞性」を支える分子基盤について概説する。		
授業の方法・形態	講義を中心とする。 遠隔会議システムを利用した同時配信を行う。		
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。		
成績評価の基準	授業への取組20%（発問に対する応答や発言内容、主体的・積極的な受講姿勢）及びレポート80%によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の5段階で評価し、C以上を合格とする。		
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。		
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。		
教科書・参考書	【教科書】 特に指定しない。 【参考書】 授業計画 3・4・6・8 「Janeway's Immunobiology」 著者：Kenneth Murphyら 出版社：WW Norton & Co		